



少年非行と発達障害

京都ノートルダム女子大学
東大医学部客員研究員

藤川 洋子

1



はじめに

- 1 少年事件のトピック
- 2 非行のメカニズム
- 3 発達障害という視点
- 4 広汎性発達障害と注意欠陥・多動性障害
- 5 具体例
- 6 発達障害と本人、親の傷つき
- 7 対応上の留意点
- 8 まとめ

2

少年事件のトピック(私見)

1 非行のボーダーレス化

先入観を裏切る事例の出現

2 「凶悪化」ではなく、「特異化」

暴走族の衰退→リーダー不在、同好会型へ
「ワル」の減少→不器用・奇異タイプが目立ってしまう

3 発達障害の指摘

鑑定医が犯罪精神科医→児童精神科医

3

事例1 13歳男子 殺人未遂

事件:口論中、弟の腹を庖丁で刺し、重傷を負わせる

家族:母(35歳 パート店員)、弟(11歳 小6)

生育歴:周産期の異常なし。

1歳 歩き始めると見境なく動き回る。

3歳 言葉が遅く、母子通園施設に。父が失職し、連れ歩くが、じっとしていないので体罰。父母不和となり離婚。弟とともに母に引き取られる。

小1 ADHDの診断で児童精神科に入院。1年後、母の再婚により家庭引取り。好きな電車での放浪、多数回

小3 次第に継父からの暴力が頻繁になる。継父から「甘い」と責められて、母も体罰。骨折2、3回に及ぶ

4

事例1 13歳男子 殺人未遂

小5 継父と母が離婚

小6 交通事故受傷 頭部に大怪我

中1 養護学級に入り、情緒面、行動面ともに落ち着く

中2 弟と口喧嘩になり、「シンショウ」と馬鹿にされたことでカッとなり、台所の庖丁で弟を刺す。

【事件の流れ】

警察署→児童相談所→家庭裁判所

(少年鑑別所)

審判で児童自立支援施設送致

【診断】 軽度精神遅滞 アスペルガー障害

5

非行をどのように捉えるか

① 生物的要因

生物・医学レベルの問題・・・発達障害・器質障害

② 心理的要因

心理的外傷体験

いじめ、虐待による感じ方の変化・・・情緒障害

③ 社会・文化的要因

家族、学校、地域の人間関係

6

司法事例における発達障害の出現率（一般との比較）

実施機関と期間	東京家庭裁判所 ('04. 7~10)	文部科学省 ('02. 2~3)
対象の年齢と属性	14~19歳の男女	6~15歳の小・中学生
母集団	862人	41,579人
不注意 多動・衝動性 (probable-ADHD)	49人(5.6%)	約1,040人(2.5%)
対人関係やこだわり (probable-PDD)	24人(2.7%)	約330人(0.8%)

9

出現率

- ❖ スウェーデン 判決前被鑑定者126人中
ADHD 15%
PDD 15%(PDDNOS・・・12% AS・・・3%)
- ❖ 英国の High-Secure Hospital (Broadmoor Ashworth Rampton) の入院患者1305人中
Autistic Spectrum Disorder 31人(2.37%)
内訳 アスペルガー障害 21人
Autism IQ50以上 4人
Autism IQ50以下 6人

10

④ PDD(=自閉症スペクトラム障害)

「自閉症」という呼称が、一般的用語である「自閉」の語義から誤解を与えやすいので、「広汎性発達障害」が用いられるようになった

ローナ・ウィングの分類

- ・**孤立型**： 他者と全く関わろうとしない
- ・**受動型**： 反応は乏しいが、指示には従う
- ・**積極奇異型**： 不躰な行動や弁えのない行動が目立つ

11

PDDの特徴

- ◎ **社会性の障害**
…他者との交流がスムーズにいかない
- ◎ **コミュニケーションの障害**
…言葉を発しても、コミュニケーションの道具になっていない
- ◎ **想像力の障害**
…見たことのないものを思い浮かべることができない、こだわり

12

具体例(PDD)

① 著名事件

豊川市の主婦殺害事件(2000. 5)

長崎市の園児誘拐殺害事件(2003. 7)

寝屋川教師殺害事件(2005. 2)

静岡タリウム事件(2005. 11)

② 自験例(約50例)

- ・対人関心型
- ・実験(人体実験・物理実験)型
- ・パニック(偶発・フラッシュバック)型
- ・その他, 障害起因型

13

具体例(ADHD)

多くの非行事例にADHDエピソードが見られる

① 自験例

- ・器物損壊、対教師暴力事例(14歳男子)

落ち着きのなさから、父親が体罰

決まりが守れず、学力が身につかない

→児童自立支援施設に入所後安定

- ・虞犯(16歳女子)

小学校時、多動により、メチルフェニデート(リタリン)を処方されたが、親子とも服薬、通院を面倒がる

→親子関係断絶し、家出・不良交友

14

発達障害と本人、親の傷つき

PDD

「場違い」「常識はずれ」
なことをして、イジメの
対象に

ADHD

「落ち着きがない」「不注意」
「何度も同じ間違いをする」
ため叱られてばかり



親のしつけ不足、愛情不足と決め付けられやすい



無力感、対人不信感が強まる(本人、親とも)

15

(続) そして非行へ

生来の不器用さ、バランスの悪さ

+

周囲の無理解(無気力)による孤立
刺激に対して過剰に反応



PDD: 奇異な非行

ADHD: 衝動的な非行

* 少年を正確に理解することにより、親は「分かってもらえた」
「救われた」という思いを持つ

* 少年への適切な対応が可能になる

16



対応上の留意点

- ◎ 指示は分かりやすく、明確に(否定の命令文や二重否定は難しい)！
- ◎ 視覚的な手がかりを活用し、予測情報、全体像を与える
- ◎ 危険な物や現象、犯罪への興味をチェック
- ◎ 周囲の理解、環境面の整備が最重要

17



処遇(適応指導)のポイント

目標

- ・非行と処分に関する正確な知識を与える
- ・環境側(親、教師)が障害を理解し、連携する
- ・可能な限り、本人にも障害を告知
- ・程度や併存症に応じて医療機関と連携

処遇のあり方

- ・機関の持つ枠組を利用して、行動療法的に関与
- ・分かりやすい約束とそのチェック
- ・不安を与えず、褒美を活用
- ・“受容と共感”では、失敗

18



終わりに

- 1 本人たちの「**分からなさ**」を知る
.....支援が不可欠
- 2 「受容と共感」では失敗する
- 3 その可能性を伝えるときには、「障害が見つかって良かった、楽になった」と感じてもらえるように最大限、配慮する
- 4 非行に対しては、特別扱いや臨機応変の扱いをせずに、**一貫性のある毅然とした対応**を
- 5 ひとりで抱え込まずに、チームプレーが肝心

19



ご清聴ありがとうございました

ご参考までに

拙著 春のはじまる朝—家裁調査官物語 2007

私が出会った少年たち 日本教育新聞社 2005

少年犯罪の深層 ちくま新書 2005

子どもの面接ガイドブック(監訳) 日本評論社 2003

非行は語る—家裁調査官の事例ファイル 新潮選書 2002

わたしは家裁調査官 日本評論社 1995

20